

326

74



始



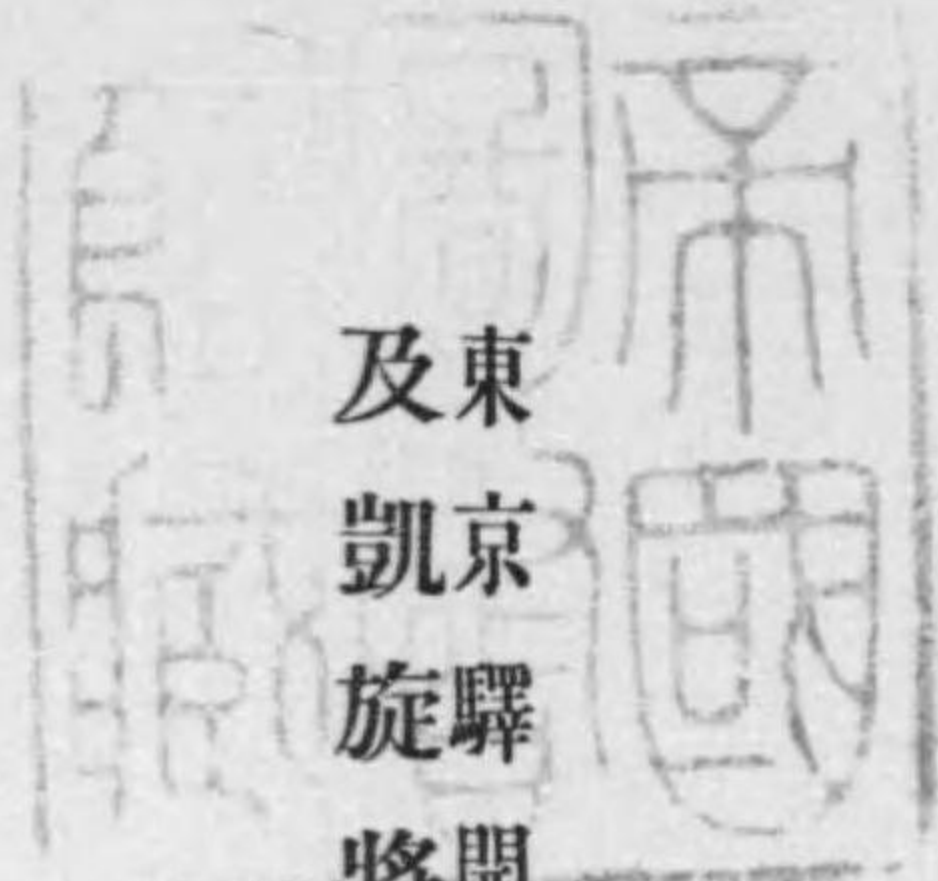
57940

326

71

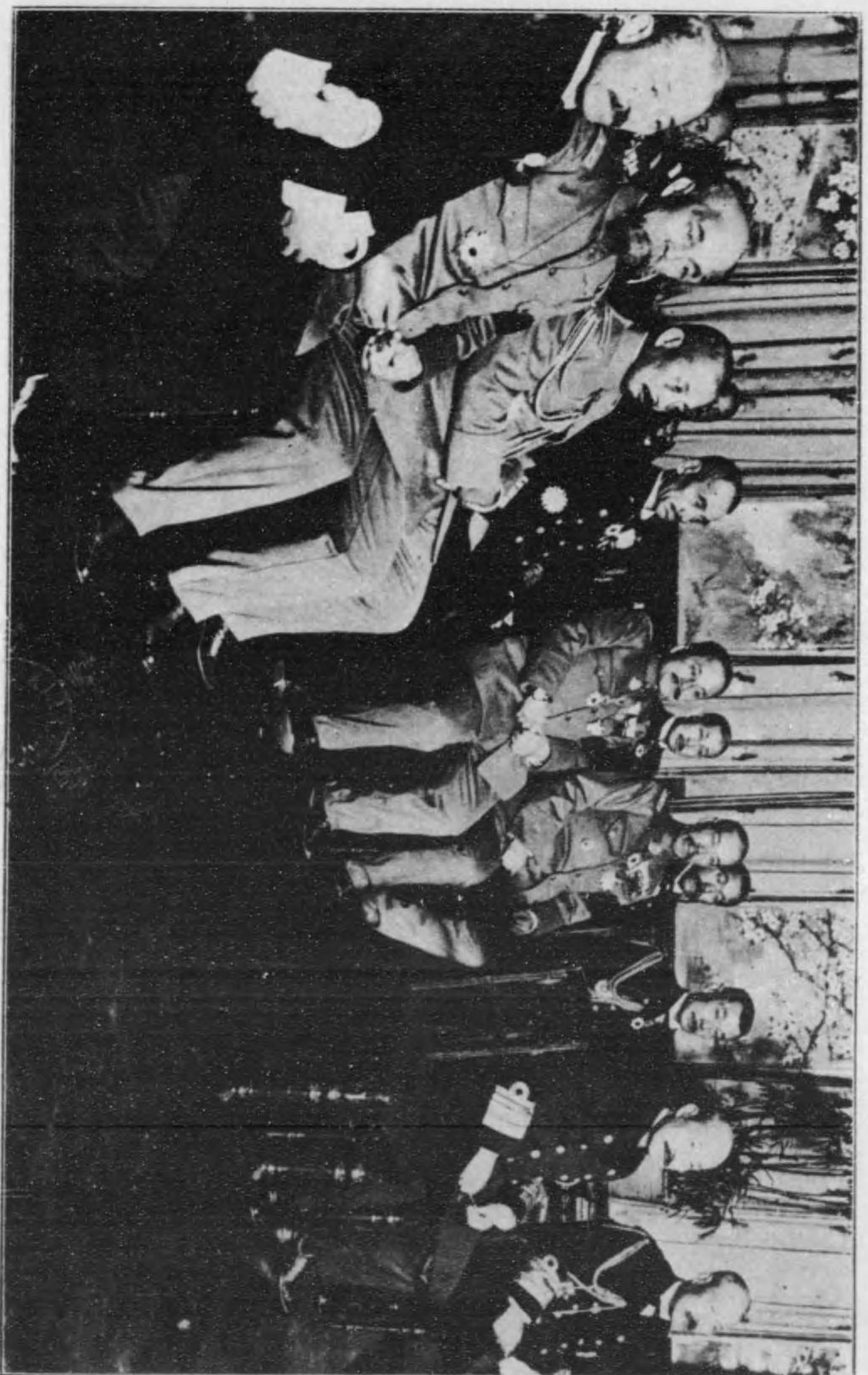
東京驛開業
及凱旋將軍
歡迎會
報告書

326
74

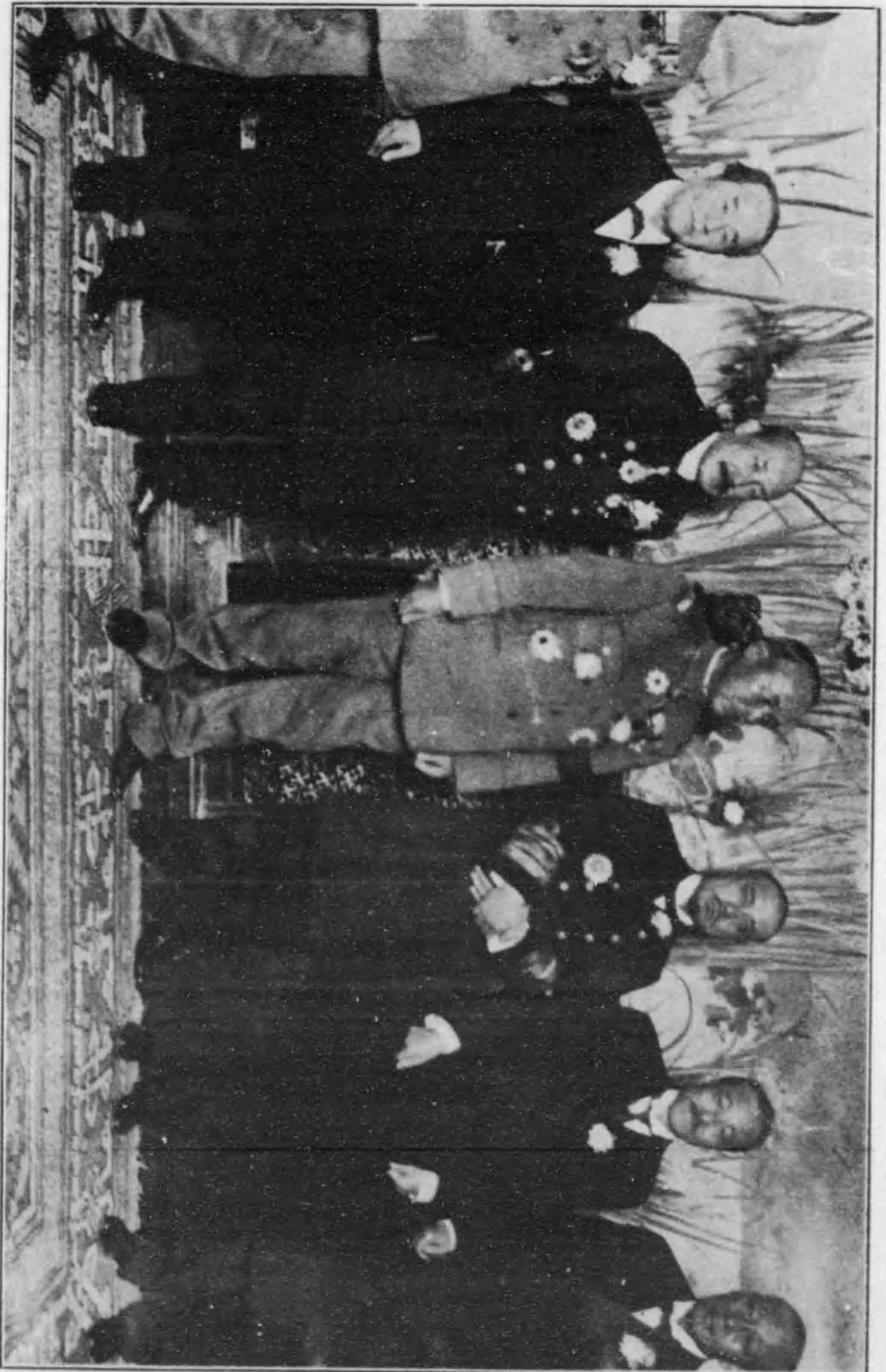


及東
凱京
旋驛
將開
軍業
歡祝
迎賀
會會
報
告
書

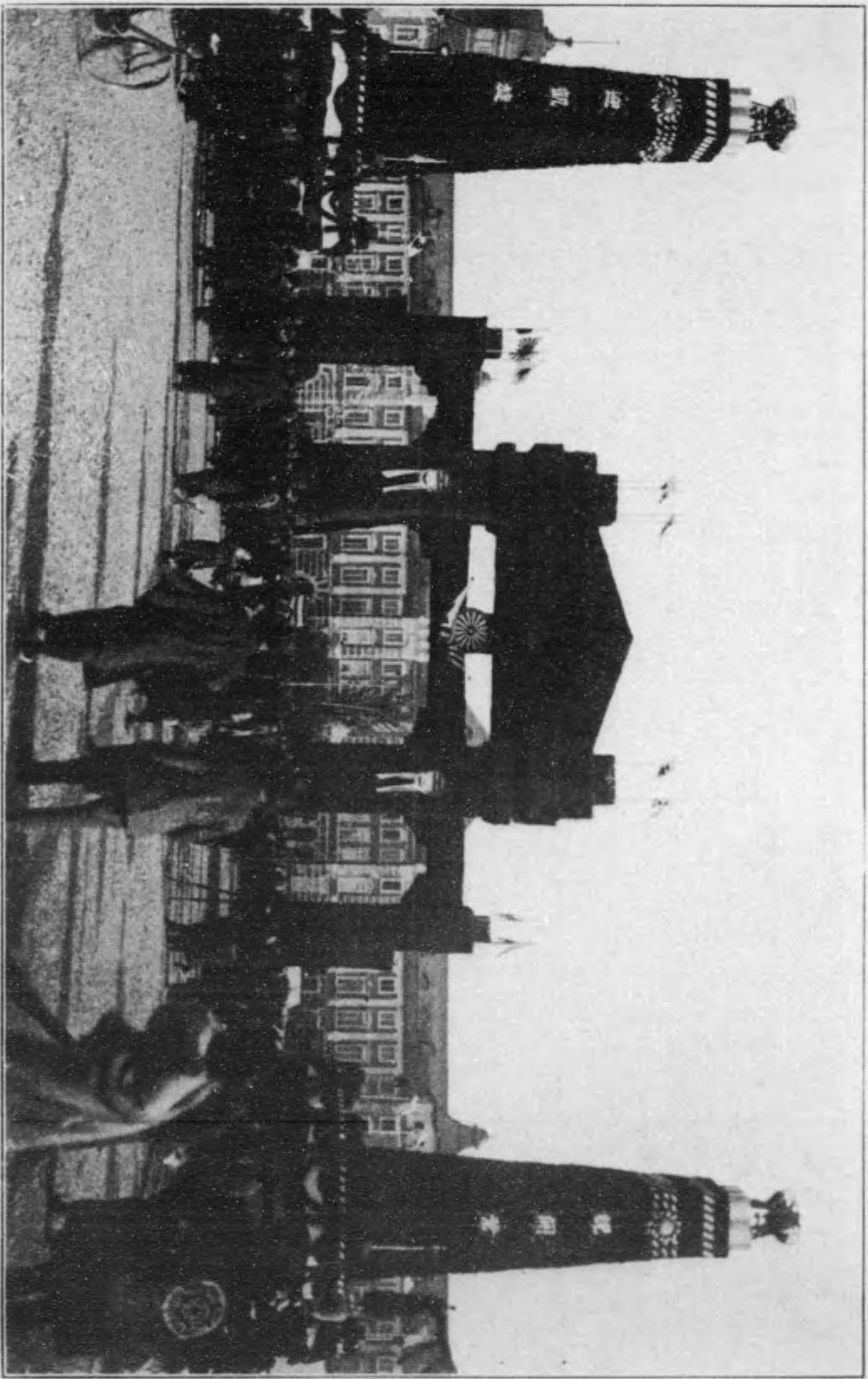
大正
4. 4. 16
內交



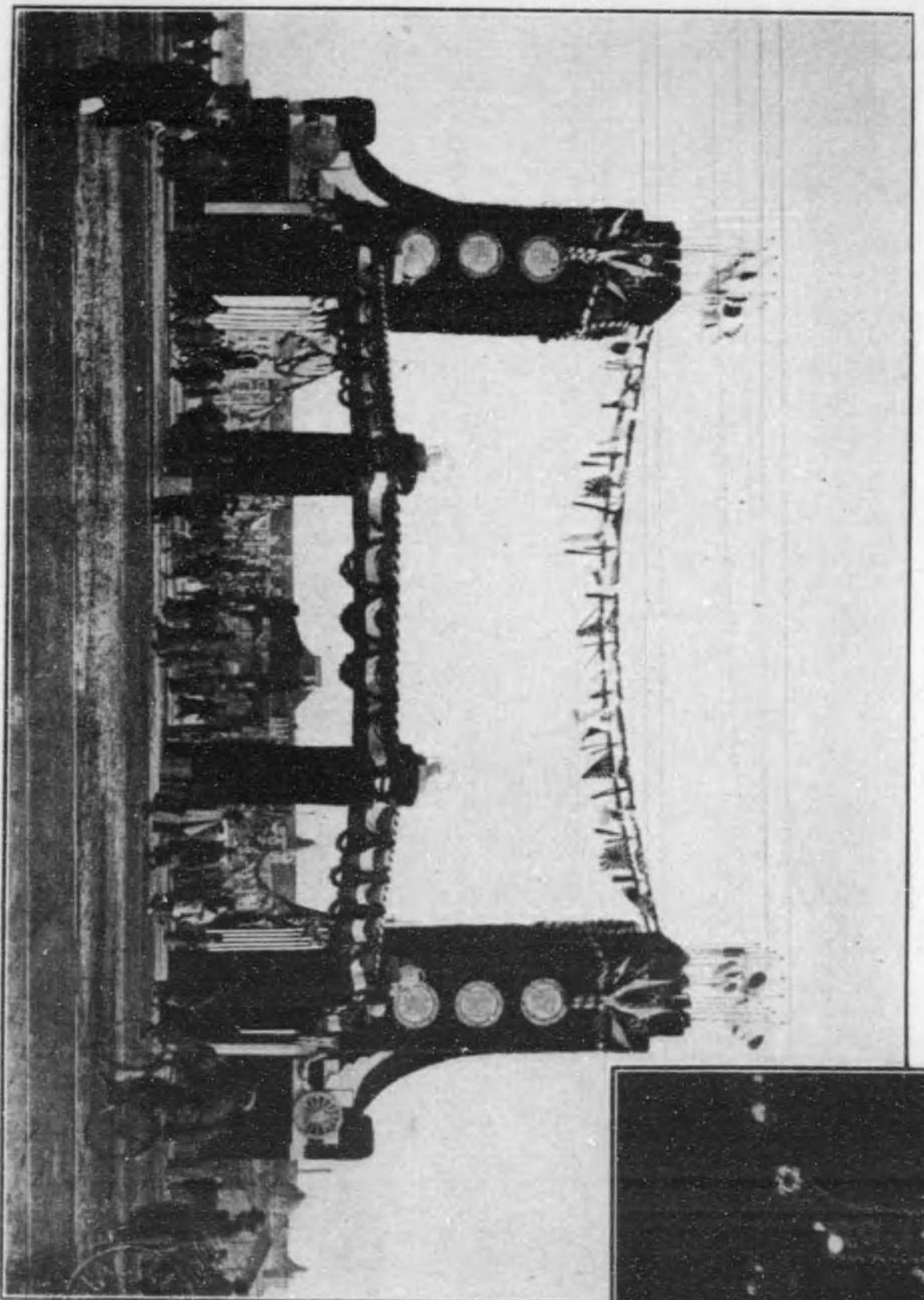
者席臨會迎歡校將軍海陸旋下以官將軍海陸田山内堀屋山
、將少軍陸内堀、將少軍陸田山、相澤代八、長部令軍海村島りよ右て向列前
長市谷阪、官次軍陸島大、長次謀參石明、將中軍海屋山
謀參部令軍海藤佐、官次軍海木鈴、長次部令軍海下山りよ右て向列後



代總人企發及資主會迎歡將中軍海陸內柳藤加尾神
(長議會市京東)頭會所議會業商京東野中、長市京東空阪、將中軍海內柳、將中軍陸尾神、相海代人、爵男澤達りよ左て向



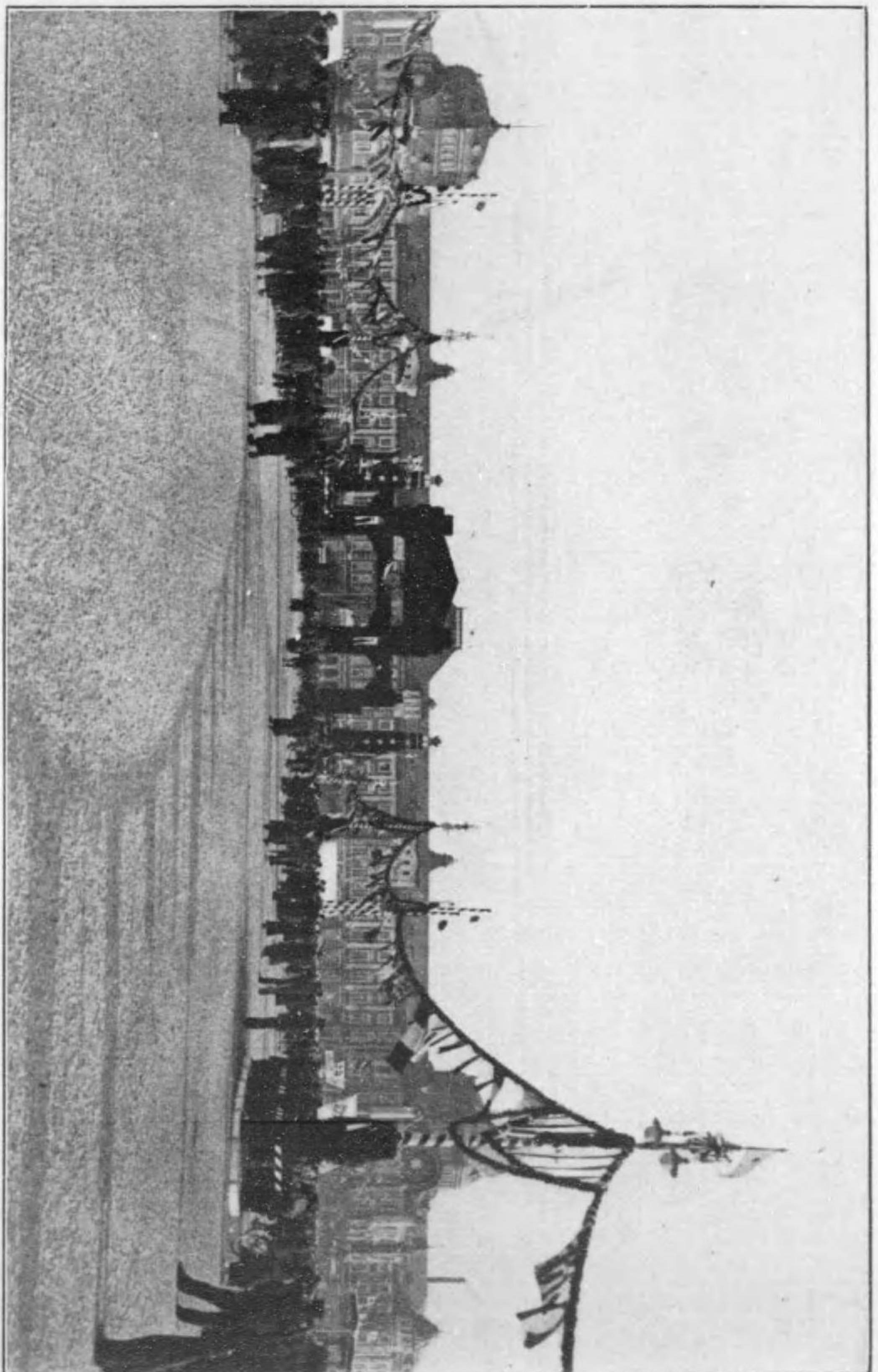
塔様双雄方を係に設建の會賀祝業開際京東及門緒大の前驛京東を係に設建の院道鐵



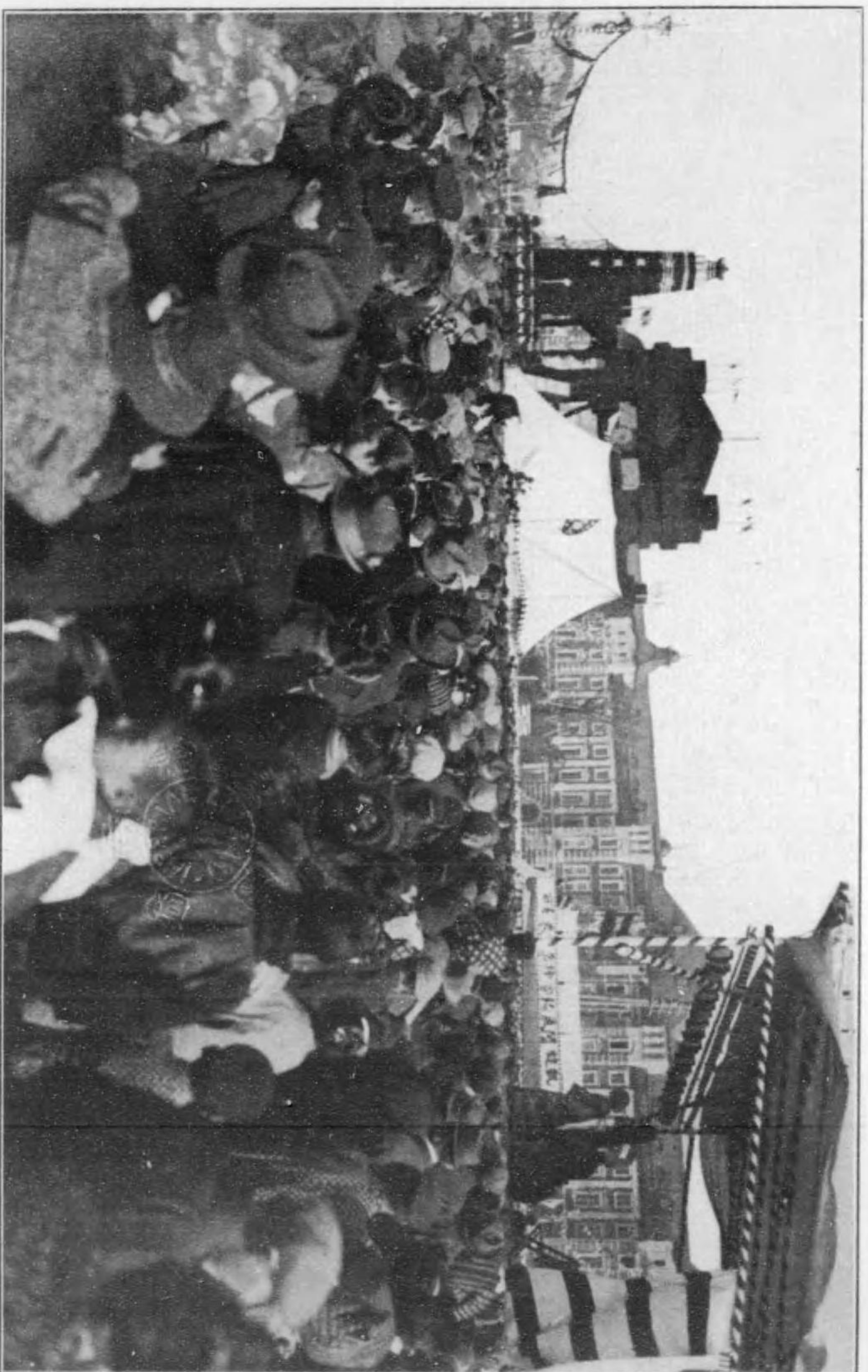
東京驛電車留置場に於ける方



東京驛電車留置場に於ける方
雙塔及圓柱列の裝飾



飾裝路道る至に驛京東リよ場留停車電前驛京東



興 隆 各 埠 於 此 前 站 京 東

東京驛開業祝賀會及凱旋將軍歡迎會報告書

目次

一 東京驛開業祝賀會及神尾加藤枋内陸海軍中將
歡迎會の成立……………一

(一) 發端……………一

(二) 準備會……………四

二 神尾陸軍中將入京に關する情願……………五

三 會費出金者及其の金額……………七

四 市の委員及分擔事務……………一〇

五 東京驛開業祝賀會及神尾陸軍中將入京の歡迎……………一三

(一) 祝賀會舉行順序及神尾陸軍中將入京歡迎順序……………一三

(二)	祝賀會場内外の役備及市内裝飾	一九
(三)	來賓及案内狀	二七
(四)	徽章	三一
(五)	開會	三三
(六)	餘興	三六
(七)	寄附者及挨拶	三九
六 神尾加藤枋内陸海軍中將歡迎會		
(一)	舉行順序及舉行次第	四一
(二)	會場内外の裝飾	四三
(三)	來賓及案内狀	四四
(四)	徽章	四九

(五)	開會	五〇
(六)	朝鮮十三道儒生の遙拜奉祝箋	五六
七 東京驛開業祝賀會及神尾加藤枋内陸海軍中將 歡迎會舉行援助者及挨拶		
八 山屋堀内山田陸海軍將官以下凱旋陸海軍將校歡迎會		
(一)	舉行之決定及其の方法	六四
(二)	會場裝飾	六七
(三)	來賓及案内狀	六七
(四)	徽章	七二
(五)	開會	七三
(六)	山屋海軍中將及堀内陸軍少將に挨拶	七七

九收支精算書

四

七八

目次畢

東京驛開業祝賀會及凱旋將軍歡迎會報告書

一 東京驛開業祝賀會及神尾加藤栃内
陸海軍中將歡迎會の成立

(一) 發端

東京驛開業祝賀會及神尾加藤栃内陸海軍中將歡迎會の成立は
阪谷市長より東京府知事久保田政周氏警視總監伊澤多喜男氏
警視廳保安部長長谷川久一氏鐵道院工務課長岡田竹五郎氏同
旅客主任兼貨物主任木下淑夫氏同參事三上眞吾氏東京府會議
長杉原榮三郎氏市部會議長酒井泰氏東京市會議長中野武營氏
(東京商業會議所會頭)同副議長山口憲氏同市參事會員坪谷善四

郎氏同野々山幸吉氏同辰澤延次郎氏同斯波厚氏同星野錫氏同
松崎權四郎氏同安藤兼吉氏同伊藤定七氏同藤原俊雄氏同江間
俊一氏同原田種德氏同溝淵正氣氏麴町區會議長竹村良貞氏神
田區會議長福田又一氏日本橋區會議長柿沼谷藏氏京橋區會議
長田村藤兵衛氏芝區會議長細野順氏東京商業會議所書記長白
石重太郎氏市參與松木幹一郎氏市收入役渡邊勘十郎氏電氣局
理事井上敬次郎氏東京市技師長日下部辨二郎氏同技師田島穠
造氏同主事野依源吾氏同大橋重省氏同松尾儀一氏同安藤彪雄
氏東京市會書記長古橋幸正氏麴町區長橋本久太郎氏神田區長
山縣鐵藏氏日本橋區長新井友三郎氏京橋區長國枝捨次郎氏芝
區長長岡往來氏の諸賢に大正三年十一月二十七日午後二時三
十分東京市役所に參會を請ひ東京驛開業に伴ふ附帶設備に關

し協議會を開きたる時に胚胎せり蓋し東京驛の建設たる帝國
多年の計畫にして其の構造の宏壯偉麗なる啻に都下建設物中
の一美觀たる而已ならず實に東洋第一の大停車場として一般
市民の世界に誇るべき所我が東京市が此の停車場の開業に依
り愈々帝國の首都たる面目を發揮し益々市内の繁榮を増進す
べきこと固より辯を俟たず之を以て上記協議會の席上新驛開
業の當日を期して市民の一大祝賀會を開催し且つ此の佳日に
於て青島要塞の攻略に關し赫々たる勳功を收められたる神尾
陸軍中將の入京を迎へ以て新驛開業の勞頭を飾る好個の記念
と爲し併せて同中將及曩に凱旋せられたる加藤(定吉)枋内兩海
軍中將の歡迎會を同日に舉行せむこの希望出で一同之に贊し
其の方法及施設等は舉げて之を市長に一任することとし散會

せり是れ實に右二會の發企せられたる端緒にして將た其の成立を見たる萌芽なり

(二) 準備會

十二月七日阪谷市長中野東京商業會議所會頭男爵澁澤榮一の三氏東京商業會議所に集合し前記祝賀會及歡迎會の舉行に關し諸般の打合せを爲し種々協議の末東京市及有志相合同して一團體を組織し之を舉行するに決し其の費用は市及有志に於て之を負擔することゝ爲し散會せり依て市長は右祝賀會及歡迎會舉行の件竝に費用支出方に就き市參事會の同意を求めて其の贊同を得尋で市會の承認を經、一面澁澤男爵中野會頭は市内實業家の重なる人々を商業會議所に請招して協議會を開き

其の贊襄を促したるに滿場異議なく之に贊成せられたるを以て茲に愈々右二會の成立を見阪谷市長中野會頭澁澤男爵三氏を發企人總代に擧げ其の事務を進むることゝなり而して之に關する百般の事務は東京市役所及東京商業會議所に於て之を取扱ふことゝなれり以下項を分ち順を逐ふて其の顛末の梗概を敘述すべし

二 神尾陸軍中將入京に關する情願

是れより先き阪谷市長は衆意の存する所に隨ひ東京驛開業の佳日に於て神尾陸軍中將の入京を迎へむことを希望し十二月一日付左の情願書を陸軍大臣に進達せり然るに其の後同中將は東京驛開業の當日即ち同月十八日を以て入京せられるゝ

ここ、爲り市民は茲に東京驛の開業と中將の入京とを同時に祝賀し二重の歡を一にすることを得たるは一同の深く光榮とする所にして又實に本會の最も満足とせし所なり

情願書

拜啓青島攻城軍司令官神尾將軍は不日凱を闕下に奏せらるるやに承り及び東京市民は感喜措く能はず滿腔の熱誠を以て此の武勳赫々たる將軍を迎へ大に感謝の意を表し度切望致居候就ては來十二月十八日十九日は我が中央停車場の開通に當り大に記念すべき佳日なるを以て特に右兩日の内に於て將軍の御入京を迎ふることを得候へは一層本會の榮光を重ぬる儀に有之衆意期せずして其希望を同ふする次第に御座候隨て軍旅の事一に御公規に屬し情願の以て之を窺ふ

可からざる所には候得共聊か民意の在る所御參考迄披陳致候閣下希くは微忱を諒とせられ宜敷御寛量被成下度此段得貴意候 敬具

大正三年十二月一日

東京市長法學博士男爵 阪谷芳郎

陸軍大臣岡 市之助閣下

三會費出金者及其の金額

東京驛開業祝賀會及神尾加藤枋内陸海軍中將歡迎會舉行に關し會費を據出せられたる向及其の金額左の如し

(芳名イロハ順)

一金貳百圓也

横濱正金銀行頭取

井上勝之助殿

- 一金百五十圓也 第一銀行頭取 池田謙三殿
- 一金貳百圓也 株式會社三井銀行常務取締役 早川千吉郎殿
- 一金五百圓也 日本橋區六ノ部 有志者殿
- 一金五千五百七拾九圓五拾四錢也 東京市
- 一金貳百圓也 富士瓦斯紡績株式會社取締役 和田豐吉殿
- 一金貳百圓也 合資會社高田商會代表社員 高田慎藏殿
- 一金貳百圓也 三井合名會社參事 團琢磨殿
- 一金貳百圓也 株式會社十五銀行頭取 園田孝吉殿
- 一金貳百圓也 株式會社東京米穀商品取引所理事長 根津嘉一郎殿
- 一金貳百圓也 日本石油株式會社社長 內藤久寬殿
- 一金貳百圓也 東京商業會議所會頭 中野武營殿
- 一金貳百圓也 合名會社村井銀行社長 村井吉兵衛殿

- 一金貳百圓也 株式會社大倉組頭取 大倉喜八郎殿
- 一金貳百圓也 東京瓦斯株式會社社長 久米良作殿
- 一金貳百圓也 株式會社安田銀行監督 安田善三郎殿
- 一金貳百圓也 大日本麥酒株式會社社長 馬越恭平殿
- 一金貳百圓也 大日本製糖株式會社社長 藤山雷太殿
- 一金貳百圓也 三井物產株式會社取締役 福井菊三郎殿
- 一金貳百圓也 帝國生命保險株式會社社長 福原有信殿
- 一金貳百圓也 古河合名會社社長 古河虎之助殿
- 一金貳百圓也 日本郵船株式會社社長 男爵 近藤廉平殿
- 一金貳百圓也 東京株式取引所理事長 男爵 郷誠之助殿
- 一金貳百圓也 東洋汽船株式會社社長 淺野總一郎殿
- 一金貳百圓也 東京電燈株式會社社長 佐竹作太郎殿

- 一金貳百圓也 三菱合資會社管事 三村君平殿
- 一金貳百圓也 日本銀行總裁子爵 三島彌太郎殿
- 一金貳百圓也 日本興業銀行總裁 志立鐵次郎殿
- 一金貳百圓也 日本勸業銀行總裁 志村源太郎殿
- 一金貳百圓也 株式會社第一銀行頭取男爵 澁澤榮一殿

四市の委員及分擔事務

十二月十日阪谷市長は東京驛開業祝賀會及神尾加藤栃内陸海軍中將歡迎會舉行に關し準備其の他の事務に當たらしむる爲め市職員中特に委員長及委員を任命し其の分擔事務を定めたり委員及分擔事務の區別左の如し

委員長 助役 宮川鐵次郎氏

委員

庶務掛

主事大橋重省氏(接待掛兼務) 主事松尾儀一氏
 主事安藤彪雄氏 市會書記長古橋幸正氏(接待掛兼務)

接待掛

收入役渡邊勘十郎氏(會計掛兼務) 理事井上敬二郎氏 主事戸野周次郎氏 主事平山勝熊氏 麴町區長橋本久太郎氏
 神田區長山縣鐵藏氏 日本橋區長新井友三郎氏 京橋區長國枝捨次郎氏 芝區長長岡往來氏 麻布區長平林政博氏 赤坂區長長谷川友次郎氏 四谷區長星野佐昭氏 牛込區長古本崇氏 小石川區長須崎緝作氏 本郷區長見山正賀氏 下谷區長山田敬正氏 淺草區長山崎

林太郎氏 本所區長岡田淳司氏 深川區長植木武彦氏

餘興掛

主事 佐藤三吾氏

警衛掛

主事 玉井幸太氏

會計掛

主事 熊野昇氏

設備掛

技師長日下部辨二郎氏 技術長兒玉隼樾氏 技師田島

礪造氏 技師福田重義氏 技師太田原俊氏 技師堀田

丈夫氏 主事野依源吾氏

而して東京商業會議所書記長白石重太郎氏は始終本會委員と

して參贊盡瘁せられたり

五東京驛開業祝賀會及神尾陸軍中將

入京の歡迎

(一) 祝賀會舉行順序及神尾陸軍中將入

京歡迎順序

東京驛開業祝賀會舉行及神尾陸軍中將著京の歡迎に就ては各般の施設に關し本會と鐵道院との間に最も密接なる關係を有するが故に市委員は同院當局と屢々交渉を重ねたる末大要左の如き舉行順序及歡迎順序を設定し發起人總代の承認を求めたる上之を決行する事とせり

イ 祝賀會舉行順序

一 舉行の時日 十二月十八日(金曜日)

一 開業式(鐵道院主催)午前九時

(此間神尾將軍著京午前十時三十分)

一 開業祝賀會舉行 午前十一時三十分

二 場所 東京驛

三 餘興

一 展覽物(東京驛模型及鐵道院模型)

一 煙火(晝夜)

一 樂隊

一 活動寫真

一 太神樂

一 里神樂

一 劍舞

一 風船飛揚

一 素人相撲

一 仁和賀

一 繫留氣球

四 裝飾(構外)

一 綠柱(大小國旗)

一 電光裝飾

一 球燈

一 花瓦斯

五 場内の設備

一 受附

- 一式場
- 一來賓休憩所
- 一食堂
- 一奏樂所
- 一湯呑所
- 一救護所
- 一事務所
- 一警官詰所
- 一便所

備考

場内警衛は鐵道院場外警衛は警察署の受持とし救護所一個所は市役所一個所は警視廳場外便所は市役所に於て設備し場外掃除

及撒水は市役所に於て之を施行す

六舉行當日は市内各戸に國旗及軒燈を掲揚すること又「イルミネーション」の設備あるものは可成點火すること其他新新橋驛等各區町々の祝意裝飾祝賀會等隨意たるべきこと
以上

□神尾陸軍中將入京歡迎順序

- 一東京驛「プラットホーム」に歡迎裝飾を施すこと
- 二東京驛前に國旗を以て裝飾を施すこと
- 三軍樂隊を招聘し奏樂すること
- 四煙火を打揚ぐるること
- 五當日市内各戸及電車に國旗を掲揚すること
- 六市長、市會議長、市會議員、區長、區會議長、區會議員、學務委員、商

業會議所會頭等東京驛に出迎ふること
以上

ハ祝賀會舉行次第

- 一 午前十一時三十分開宴(奏樂)
- 一 東京驛祝賀會發企人總代挨拶
- 一 來賓挨拶
- 一 君が代(奏樂)
- 一 天皇陛下
- 皇后陛下萬歲三唱(發企人總代發聲)
- 以上

(二) 祝賀會場内外の設備及市内裝飾

イ 東京驛「プラットホーム」の裝飾

東京驛電車發著所「プラットホーム」の各鐵柱は青色及赤色の「モール」を以て之を捲き更に其の要部を杉の綠葉にて包み天井には獨塊を除きたる各國旗を蜘蛛手に張り適當の場所四箇所に美麗なる花環を吊す

ロ 食堂の裝飾

食堂は東京驛三階北方八角「ドーム」の周圍及其れに連なる各室を以て之に充て天井は赤色及黄色の「モール」を以て裝飾す

ハ 東京驛前方錐双綠塔

鐵道院に於て東京驛前に建設せられたる大綠門の前面左右に

底基七尺五寸方、頂四尺五寸方、高三十六尺の方錐双綠塔を建設す。塔の頂上には高一尺五寸、方三尺の布張臺の上に瓦斯篝火を設備し、又頸部には裝飾を施し、前面及背面には「迎凱旋」「祝開業」の文字を各一字方二尺の額面内に白米にて現せり、而して塔の根廻りには塔中心點より九尺八寸を距て、方一尺五寸高十尺五寸の小綠柱八個を配置し、連結するに紅白の横筋小幕を以てし、各小綠柱に長五尺の市徽章入り幡旗を樹つ

二 道路兩側の裝飾

東京驛前電車停留場より東京驛に至る四十間道路の兩側に建設せらるゝ高六間の鐵製街燈柱に紅白の布を捲き付け、頸節に綠輪三個を連垂し、根廻は綠葉を以て包み、街燈と街燈との中間には裝飾小柱を樹て連結するに綠鎖を以てし、之に聯合國の國

旗を吊るし、黄色布を旗間に垂下し、夜間は街燈に五百燭光二個宛を點火し、宛然白晝の觀あらしむ

ホ 東京驛前電車停留場側方綠双塔及

半圓綠柱列

東京驛前電車停留場より東京驛に通ずる道路の中心より左右に五間半宛を距て、方綠双塔を樹つ。塔は高五十五尺、頂二間方下部二間、三間の方綠塔にして、頂上に五尺の旗竿十三本宛を樹て、之に國旗を附し、頸部には直徑七尺の花輪を四方に附し、更に國旗を以て射狀裝飾を爲し、塔の左右前背面には「祝開業」「迎凱旋」の文字を各一字直徑五尺の圓板内に「ペンキ」にて表示せり。腰部には高三間の紅白幕を三面に圍らし、一方曲止部には前背面に直徑五尺の鐵道院紋章を附し、又交通を標示する爲め長九尺の

羽を附せり方塔と方塔とは頭部を緑鎖にて連結し聯合國の國旗を附し間には往々市徽章入幡旗を附す而して兩方塔の背部には半徑三十九尺の半圓形に高三間方三尺の緑柱六個を圓柱列に樹て各頸部は紅白の横筋小幕を以て之を連結し各柱には緑輪を附し緑鎖を以て裝飾し柱頂には直徑一尺八寸の「グローブ」を附し夜間は一千燭光の電燈を點火す

方塔左右の袖には六尺方高四間の小緑柱を樹て頂上に高七尺五寸の旗竿八本宛を樹て國旗を附し頸部には小緑輪を掛け國旗を以て射狀裝飾を爲し孰れも夜間「イルミネーション」の裝置を施す

へ餘興場其の他の設備

餘興場は東京驛前三菱所有空地を臨時借用して太神樂、仁和賀、

劍舞活動寫眞、素人相撲の演行場四箇所を設備し又場内に警察官出張所、救護所、市役所出張所、接待湯呑所、便所等を設く今其の設備の概要を記すれば左の如し

一 太神樂及劍舞舞臺

幅三間奥行四間の丸太組にして床下五尺五寸床上に花筵を敷き詰め屋根は片流にして天幕張とせり丸太は總て紅白の布を以て捲き舞臺及樂屋は紅白の豎幕を張り腰の周圍は黒白の横幕にて覆ひ軒先及腰を黃色及綠色の「モートル」を以て裝飾し軒に丸灯提を吊す

一 仁和賀舞臺

幅五間奥行三間の丸太組にして諸設備總て前に同じ

一 活動寫眞場

映寫場は燈火比較的少き場所を選びて二間四方の丸太小屋を建設し地上七尺の所に床を設け器械据付の場所より前方九間を隔て、幕を張り夜間映寫を爲す

一 素人相撲場

地上に高二尺の土俵を築き四本柱を樹て見物席は丸太を以て欄を設け蒲を敷く附近に六坪の天幕張を設け力士の休憩場に充つ

一 警察官出張所

警察官幹部の出張所は十二坪の天幕張にして巡査出張所は二十四坪の天幕張なり周圍は紅白の幕を圍らし椅子、卓子等を備ふ

一 警視廳救護所

十五坪の天幕張にして紅白の幕を圍らす

一 市役所出張所

十五坪の天幕張にして紅白の幕を圍らし椅子、卓子等を設け備し係員の休憩所に充つ

一 公衆湯呑所

十二坪の天幕張にして紅白の幕を圍らし青竹を以て欄を設け中橋元祖實母散總本家の寄附に依り公衆接待を爲す

一 消防吏詰所

六坪の天幕張にして紅白の幕を圍らし蒲を敷き消防其の他の警戒を爲す

一 便所

大便所二箇所、小便所三箇所を場内五箇所に設け周圍を葎

簀張ご爲す

一 煙火打揚場

東京驛前市電氣局材料置場内に之を設く

又當日は市内一般に祝賀及歡迎の意を表示せしむる爲め市委員長より區委員に對し左の通牒を發し國旗掲揚方其の他を依頼したり

來る十八日は東京停車場開業式竝に神尾將軍入京に付左記の件宜敷御配慮相成度此段申進候也

大正三年十二月十四日

委員長

各區委員宛

左記

一 當日は市内各戸に國旗及軒燈(肴合せ)を掲揚すること

一 「イルミネーション」の設備ある向は可成點火すること

其他各町内の祝意裝飾祝賀會等は隨意のこゝ

以上

(三) 來賓及案内狀

東京驛開業祝賀會來賓及其の案内狀左の如し

イ 來賓

一 大臣、大臣待遇、親任官、親任官待遇

一 元老、元帥、宮中顧問官、樞密院議長、副議長及顧問官、書記官長

一 各省關係局長以上

一 貴衆兩院議長、副議長、議員、書記官長、內閣書記官長

- 一 參謀總長、部長以上、軍事參議官
- 一 海軍軍令部長、同次長及幕僚
- 一 近衛師團長、第一師團長
- 一 鐵道院總裁、副總裁以下關係諸員
- 一 衛戍總督、會計檢查院長、憲兵司令官、行政裁判所長官、教育總監、鐵道聯隊長
- 一 鐵道會議員、東京市區改正委員
- 一 東京帝國大學總長及名譽教授、直轄學校長
- 一 大審院長、控訴院長、地方裁判所長、檢事正、東京遞信局長
- 一 東京府知事、內務部長、理事官
- 一 警視總監、部長、關係警察署長
- 一 東京府會議員

- 一 東京市會議員、同待遇者市學務委員
- 一 各區會議長、區會議員、區學務委員
- 一 養育院常設委員
- 一 東京市長、市參與、助役、收入役、技師長、理事、區長及關係諸員
- 一 東京商業會議所會頭、副會頭其他東京市內實業家
- 一 神奈川縣知事、部長以上、神奈川縣會議長
- 一 橫濱市長、市會議長、市參與、助役、收入役、橫濱商業會議所會頭及副會頭
- 一 橫濱稅關長
- 一 鐵道協會役員
- 一 新聞通信社長、市政記者、鐵道記者
- 一 特殊銀行總裁

一 工事勤勞者及請負者

以上

□案 内 狀

拜啓時下益々御清穆奉賀候陳ば來る十八日午前九時東京停車
場に於て開業式舉行相成候に付聊か祝意を表する爲東京市
及有志相謀り祝賀會相催候間同刻御臨席被成下候は、光榮
に存候右御案内迄如此に御座候 敬具

發企人總代

男爵 阪谷芳郎

大正三年十二月十二日

中野武營

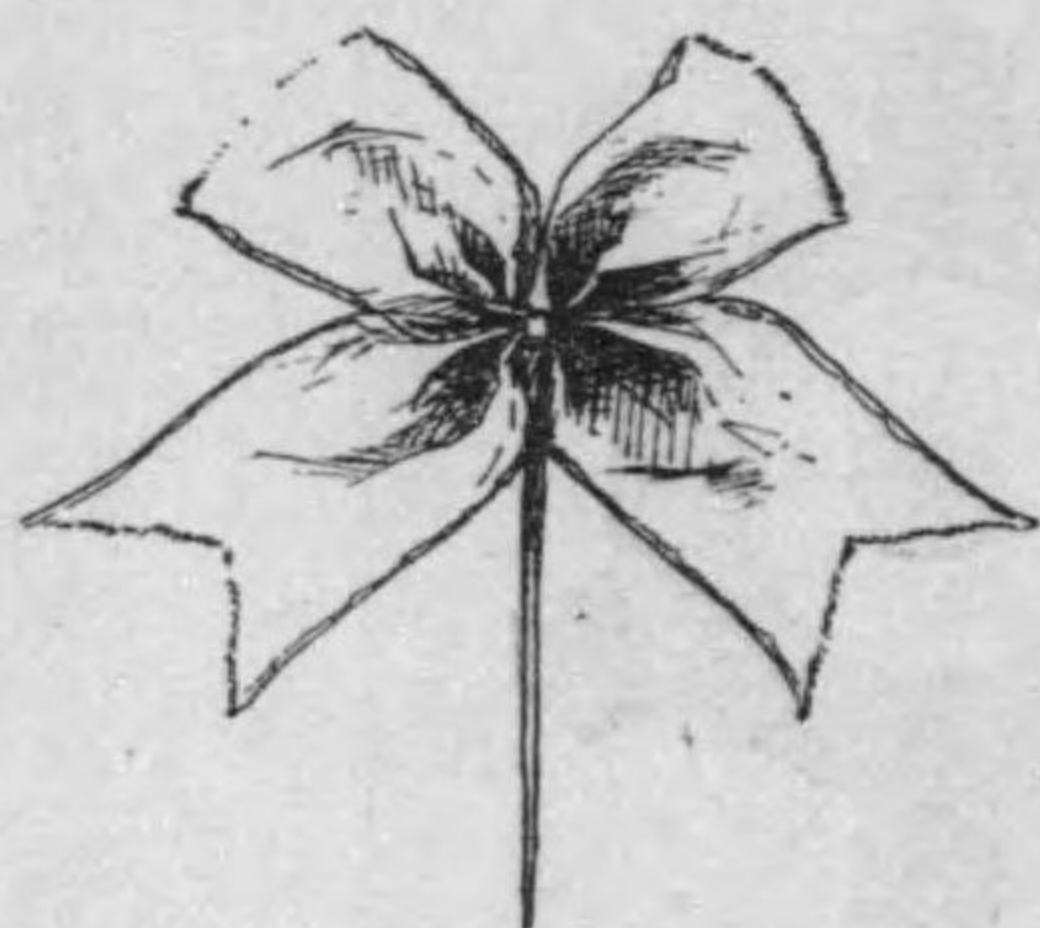
男爵 澁澤榮一

宛

追而當日此案内狀御持參被下度希望仕候

(四) 徽章

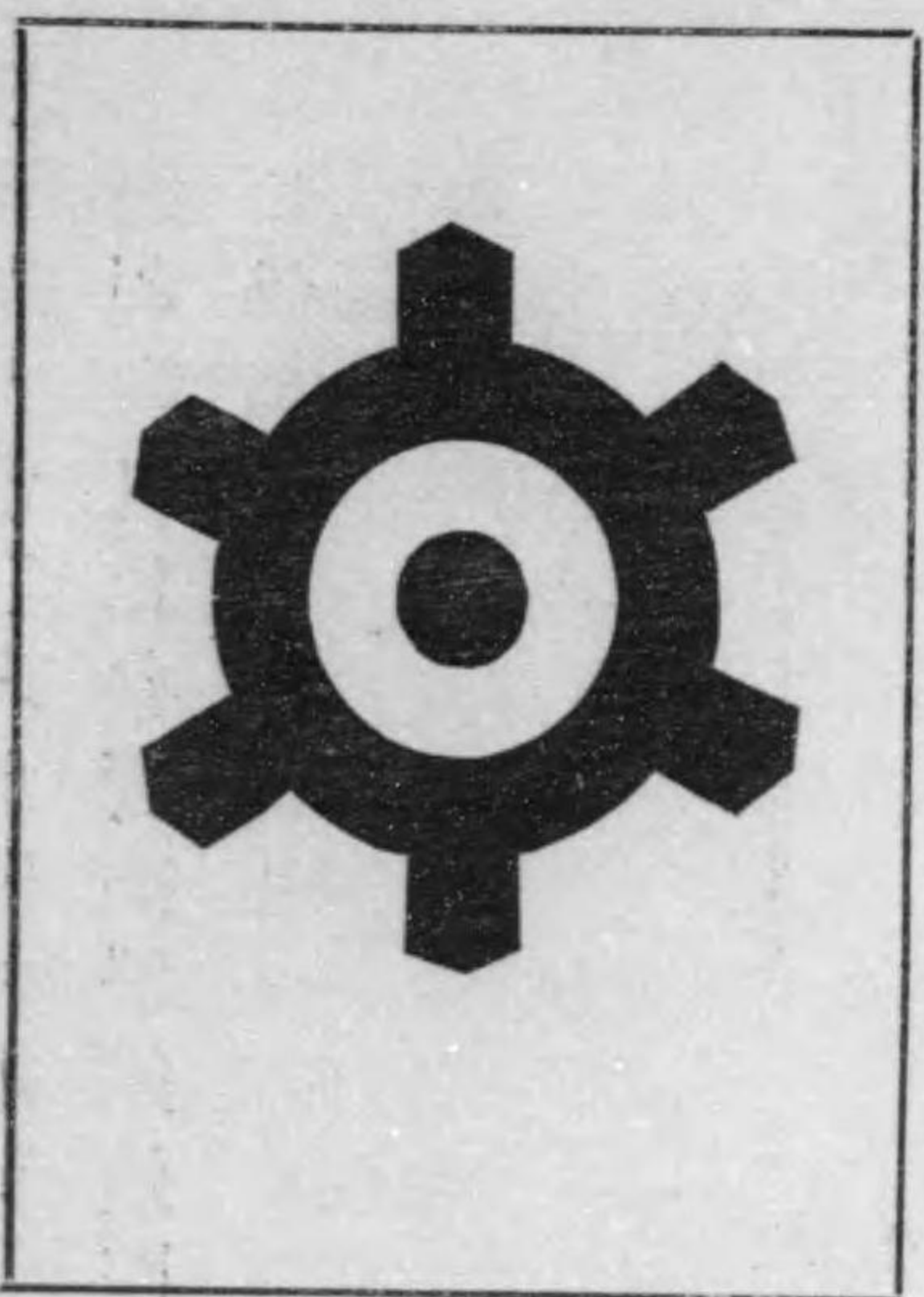
祝賀會舉行當日本會關係掛員及使用人等の徽章を左の如く設
定し警視廳、日比谷警察署鐵道院へも届出たる上一見他と區別
するに便ならしめたり



係員徽章

地質 リボン

色 草色



給仕小使等徽章

地質 白木棉

(五) 開 會

大正三年十二月十八日は正に維れ都下二百萬の市民が鶴首して待ちたる東京驛の開業式と神尾陸軍中將入京の歡びとを一時に集めたる佳日なり此の日や早朝より朝野貴紳の新驛に集まるもの陸續として絶へず幾萬の民衆亦此の盛儀を祝福し併せて功名赫々たる中將の入京を歓迎せむ爲め驛前に雲集し左しにも廣き三菱原頭も唯見る一面の人の山人の海其の盛觀壯況殆ど名狀すべからず斯くて午前九時盛大なる開業式は驛の一室に於て舉行せられ尋で中將著京の時刻と爲るや一同「プラットホーム」に整列して來著を待つ臆て中將及其の幕僚を乗せたる一輛の電車は時刻を過らず新驛に到著し一行は茲に一同

の熱心なる歓迎を受け其れより高橋驛長及阪谷市長の先導にて驛の入口に向ひ此所より馬車に分乗して宮城に向ふ驛前の群衆踊躍抃舞して萬歳を連呼し其の聲天地を揺かす稍ありて東京驛開業祝賀會舉行の時刻と爲るや來賓及主人側一同會場に集合し立食の宴を開く宴酣なる頃發企人總代澁澤男爵は會衆に一禮して挨拶を陳べ終りに例を東海道五十三次の道中双六に採り同双六に於て江戸を振り出し京都を上りと爲したる道程も今や我が國運の進歩と世界交通の發達とに依り東京を起點とし倫敦を上りと爲すの盛況に達するに至れり而して東京驛の建設は實に此の世界的交通の上に最も善美なる設備を與へたるものなりと説きて新驛の開業を祝し次で大隈首相は來賓一同を代表して一場の答辭を爲し東京市及有志が新驛

の開業に際し特に祝賀會を設けて盛宴を開催し、厚意を謝したる後國家は交通の發達に依りて發展す我が帝國は東京驛の開業と共に益其の改善進歩を企圖せざる可からず鐵道の速力を増加し貨物の取扱を完からしむるが如き蓋し刻下の要務に屬す而して其の能く之が實績を擧ぐるは是れ一に鐵道當局者の職務なりと雖も亦實に一般國民の努力に俟たざる可からずと説述し喝采を博せり

右了るや陸軍軍樂隊は「君が代」の國歌を吹奏し次で發企人總代阪谷男爵の發聲にて 天皇 皇后兩陛下の萬歳同中野武營氏の發聲にて帝國鐵道の萬歳を三唱し祝盃を擧げ主客歡を罄して散會したるは正午三十分を過ぐる頃なりき

(六) 餘興

東京驛開業祝賀會及神尾陸軍中將入京歡迎の餘興は陸軍戸山學校軍樂隊に託し軍樂を奏したる外同日より三日間東京驛前廣場に於て左の九種を演行せり

一 煙火 鍵屋玉屋に請負はせ晝夜四百四十二發を打揚げたり

一 仁利賀 毎日午前十一時より午後七時迄鶴家團十郎一座之を演行せり

一 太神樂 毎日午前十一時より午後九時迄鏡味仙太郎一座之を演ぜり番組左の如し

一 祝獅子舞 二撥球綾取の曲

三水雲井茶腕の曲 六西洋ナイフ皿練磨クラブスの曲

四壹つ大球の曲 七五階茶腕の積物

五花籠球の曲 八火煙撥の取分け

番外

一 逆滑稽足踊 二 掛合茶番

一 里神樂 毎日午前十一時より午後九時迄竹山金太郎一座左の番組に依り之を演ぜり

一 御祝儀三番舞 五 新舞紅葉狩

二 日本武尊蛇退治 六 蛭子大黒天祝舞

三 日本武尊玉取姫 七 桃太郎鬼退治

四 滑稽馬鹿兩面踊 其他數番

一 素人相撲 毎日正午より日没迄熊井嘉光に請負はせ演行

せり

- 一 活動寫眞 日本活動寫眞株式會社に請負はせ毎夜午後六時より同九時迄映寫せり番組左の如し
 - 一 冒險談 勇婦エラー 五滑 稽 チャンピオン
 - 二 活劇 豪男 六滑稽活劇 蔦進
 - 三 活劇 車輪の響 七時 事 武装せる歐洲
 - 四 滑稽 宙乘自轉車 八戰爭實寫 ゴーモン
- 外に青島陷落東京市祝賀會實況
- 一 風船 鍵屋に請負はせ毎日之を飛揚せり
- 一 洋祝火是れ亦鍵屋に請負はせ毎夜點火せり
- 一 顯武術及士道劇 毎日午前十一時より午後九時半迄犬塚士道の寄附に依り之を演ぜり

一 繫留氣球 氣球廣告社の寄附に依り毎日之を飛揚し十九日二十日の兩日は氣球に點火装置を施し夜間飛揚を爲せり

(七) 寄附者及挨拶

東京驛開業祝賀會及神尾陸軍中將歡迎の趣旨を贊し市内有志より餘與其の他を寄附せられし向尠からず左に之を掲記す

- 一 餘興費(會費出金者の項に掲出せり) 日本橋區六ノ部有志者殿
- 一 繫留氣球 氣球廣告社殿
- 一 大日本士道劇及顯武術 士道劇顯武術開祖大日本士道會長 犬塚士道殿
- 一 四吋半煙火 二十一本 鍵屋 篠原 彌兵衛殿
- 一 四吋半煙火 二十一本 玉 及 川 博之殿

一 實母散及茶菓接待

因て以上の寄附者に對しては祝賀會及歡迎會終了後發企人總代 阪谷男爵中野武營 澁澤男爵三氏の名を以て夫々挨拶狀を發送し又は口頭を以て感謝の辭を陳べたり

氣球公社に挨拶

拜啓今回東京停車場開業祝賀會及神尾加藤枋内陸海軍中將歡迎に際し繫留氣球飛揚御寄附相成り爲に一層盛況を加へ候段感謝致候右御挨拶申述候也

大正三年十二月二十一日

發企人總代

男爵 阪谷芳郎
中野武營

氣球公社御中

男爵 澁澤榮一

此の他の挨拶狀は孰れも右と大同小異なるを以て之を省略す

六 神尾加藤枋内陸海軍中將歡迎會

(一) 舉行順序及舉行次第

神尾加藤枋内陸海軍中將歡迎會舉行に就ては市委員及發企人總代に於て豫め左の舉行順序及舉行次第を協定し之を實施するに決せり

イ 舉行順序

一 舉行の日時 十二月十八日午後五時

一場 所 帝國ホテル

三服 裝 (通常服又は正裝)

四裝 飾

館内特別意匠裝飾

國 旗

電光裝飾

球 燈

樂 隊

五尙當日は市内各戸に國旗及軒燈(有合せ)を掲揚すること又「イルミネーション」の設備あるものは可成點火すること其の他各區町々の祝意裝飾祝賀會等隨意たるべきこと以上

口舉行次第

- 一大正三年十二月十八日午後五時參集同六時開會
- 一發企人總代歡迎辭
- 一來賓挨拶
- 一君が代(奏樂)
- 一大元帥陛下萬歲三唱(發企人總代發聲)
- 一帝國陸海軍萬歲三唱(發企人總代發聲)
- 一凱旋將軍萬歲三唱(發企人總代發聲)

(二)會場内外の裝飾

會場の裝飾は正門際に清楚なる綠門を設け國旗を交叉し玄關天井には黄色及綠色の「リボン」を蜘蛛手に張り休憩室の入口には古松及菜花を活け天井には玄關同様の「リボン」を張り四邊に

風雅なる盆栽を配置す又廊下には「リボン」及紅白の引幕を張り當日の談話室たる舞踏室は天井を大國旗にて覆ひ四周に「リボン」及花環を装置す而して食堂は天井一面に五彩の「リボン」を張り中央に三個の大花天蓋を設け四壁には生花を挿したる多数の鈎瓶及月桂樹の花環を掛け善美を盡せり

(三) 來賓及案内狀

イ 來賓

當日の來賓左の如し

- 一 神尾陸軍中將
- 一 加藤海軍中將
- 一 柄内海軍中將

- 一 青島攻圍軍及封鎖艦隊の幕僚
- 一 元老元帥
- 一 樞密院正副議長
- 一 各省大臣次官
- 一 參謀總長、次長及幕僚
- 一 海軍軍令部長、次長及幕僚
- 一 陸海軍省武官
- 一 鐵道院總裁、副總裁
- 一 貴衆兩院議長、副議長
- 一 市選出衆議院議員
- 一 東京府知事、府會議長、府會議員、市部會議長
- 一 警視總監

- 一 市會議員及同待遇者
- 一 市學務委員、養育院常設委員
- 一 市參與、助役、收入役、技師長、理事
- 一 各區會議長
- 一 各區區長
- 一 市内主なる實業家
- 一 新聞通信社長及市政記者
- 一 其他關係者

□案 内 狀

主賓案内狀

當日の主賓たる神尾加藤枋内陸海軍中將に對し發企人總代より發送したる案内狀左の如し

拜啓閣下曩に青島攻撃の大任を全ふし殊功を收められ候御事某等の感謝措く能はざる所に御座候就ては今般御入京を機とし聊か御慰勞の微意を表する爲東京市及有志胥謀り來る十八日午後五時帝國ホテルに於て歡迎會相開き候間何卒御來臨の榮を得度此段御案内申上候 敬具

大正三年十二月十四日

發企人總代

男爵 阪谷芳郎

中野武營

男爵 澁澤榮一

宛

ハ陪賓案内狀

又陪賓に對し發送したる案内狀左の如し
拜啓今般入京の神尾陸軍中將閣下加藤海軍中將閣下及枋内
海軍中將閣下一行を招待し歡迎會相開き候間來る十八日午
后五時帝國ホテルへ御光來被成下度幸に御臨席を得は光榮
の至に御座候此段御案内申上候 敬具

大正三年十二月十四日

發企人總代

男爵 阪谷芳郎
中野武營
男爵 澁澤榮一

宛

追て當日此案内狀御持參被下度希望

(御服裝は通常服「フロックコート」又は通常禮裝に願上候)

(四) 徽 章

當日の來賓及係員には本會に於て豫め左記形狀の徽章を新製
し會場入口にて一々之を交付したり



地質絹
葉 青
花瓣 白

(五) 開 會

東京驛開業祝賀會は前述の如く非常の盛況を以て終了を告げたるが次で神尾加藤枋内陸海軍中將歡迎會開催の時刻と爲るや幾百の來賓人車馬車自動車を驅りて帝國ホテルに參集し歡談笑語場内に充溢せり既にして當日の正賓たる神尾枋内兩中將は馬車を驅りて會場に來著し澁澤男爵の先導にて場内設備の休憩所に入れり暫くにして主客一同食堂に臨み宴を開く此の間海軍軍樂隊は軍樂を奏して興を添ふ宴半にして澁澤男爵は發企人を代表し左の歡迎文を朗讀す

歡 迎 文

陸軍中將神尾光臣閣下

海軍中將加藤定吉閣下

海軍中將枋内曾次郎閣下並出征陸海軍將校各位
閣下及各位は日獨開戰以來敵の東洋に於ける根據地たる青島要塞の攻撃に従事し勇戰奮闘其の要壘を陥れ其の堅艦を破り遂に之を占領して大に我が武力を發揚し國光を中外に顯彰せられたり是れ偏に閣下及各位が國家の爲に身を忘れ義勇奉公の忠節を全ふせられたるに依らずむばあらず其の功勳偉業炳として日星を懸け長へに青史に垂る惟ふに今次の戰亂は世界有史以來の事件にして帝國榮辱の擊る所亦極めて大なり而して青島の陷落は陸上に於ける我が軍事行動の一段落を畫したるものなりと雖も尙ほ交戰の實情を持續し其の將來に於ける戰機の變轉蓋し豫測す可からざるもの

あり此の時局に處して光榮ある戰果を收め以て益國威を四表に宣揚せむことは帝國上下の齊しく要望する所にして又閣下及各位の今後に於ける淬勵に俟たざる可からざる所なり今や閣下及各位の入京に際し其の赫々たる武勳を憧憬し感激敬慕の情自ら禁ずる能はず某等乃ち茲に歡迎會を設け滿腔の赤誠を披き以て勞犒感謝の意を表す閣下及各位冀くは某等の微衷を諒とし幸に之を享受せられむことを

大正三年十二月十八日

發企人總代

男爵 澁澤榮一

中野武營

男爵 阪谷芳郎

右了るや神尾將軍は拍手急霰の裡に起ち陸海軍を代表して大

要左の如き答辭を陳ぶ

今夕は東京市民及び實業家の御主催にて生等の爲めに極めて鄭重なる歡迎の宴を催されたるは深く謝する所なり幸ひに生等は使命を全うして歸りたるも畢竟するに天皇陛下の稜威と國民の深厚なる同情とに依ること、信ず惟ふに今後は商戦に移らざる可からず山東方面の商機を一手に掌握するが如きは現に今夕此の席上に列せらるゝ實業家諸君の御働きに俟たざる可らず次に斯の如き盛大なる歡迎會に臨むに付け坐るに生等が胸を打つものは青島の戦争に犠牲となりし部下將卒の身の上なり彼等は實に皇國の爲めに一命を捧げたるものなり「一將功成萬骨枯」は古來よりの言なるが武將の心事は全く此の感に打たれ萬斛の涙を胸

に湛ふるなり希くは滿場の諸君彼等の父母彼等の妻其の他
彼等の遺族の爲めに最も深厚なる同情を寄せられんことを
中將の此の答辭は一般會衆に對して多大の感動を與へ滿堂肅
こして聲なきもの稍々久しかりき斯くて全員起立の上君が代
の吹奏を了り次で阪谷市長の發聲にて 大元帥陛下の萬歲中
野武營氏の發聲にて帝國陸海軍の萬歲澁澤男爵の發聲にて凱
旋將軍の萬歲を三唱し之にて當日の宴を閉ぢ一同小憩の後八
時四十分頃散會せり

因に當日の正賓たる加藤海軍中將は同月十六日第二艦隊を
率ゐる横須賀出發の命を奉ぜられたる趣を以て臨場の光榮を
得る能はざりしは本會の最も遺憾とせし所なり今同中將よ
り本會發企人總代宛送附せられたる書簡を擧ぐれば左の如

し

拜啓來る十八日東京市及有志諸彦より鄭重なる御招待に
接し御厚志誠に忝なく存候得共小官は明十六日第二艦隊
を率ゐる横須賀軍港出發の命を受け居り列席の光榮を有す
るを得ざるを深く遺憾と致候曩に入京の際は盛大なる御
歓迎を受け今又御招待に接し感謝の至りに堪えず茲に御
斷りを兼ね深厚なる謝意と敬意を表し候 敬 具

大正三年十二月十五日

第二艦隊司令長官

海軍中將 加藤 定吉

男爵 阪谷 芳 郎殿

中野 武 營殿

男爵 澁澤榮一殿

(六) 朝鮮十三道儒生の遙拜奉祝箋

朝鮮十三道儒生四十五名は東京市及有志に於て神尾加藤枋内陸海軍中將歡迎會舉行の事を傳聞し特に左の遙拜奉祝箋一葉を本會宛送附越せり依て發企人總代は其の厚意を傳ふる爲め大正四年一月七日其の寫を三中將に贈呈し同時に儒生諸氏に對し挨拶狀を發送したり

凱旋祝賀會遙拜奉祝箋

朝鮮十三道儒生代表宋鍾洙等謹百拜

奉祝

帝國 萬萬歲

天皇陛下 萬萬歲

陸海軍凱旋壯士一同 萬歲

凱旋祝賀會諸位一同 萬歲

伏以 伏皇靈而薄伐聿觀凱歌之旋

伏以 蒼羣望而舉欣爰設祝賀之會

萬口騰頌 恭惟陸海軍青島出征壯士

四海同情 勵精運策贊帝德於誕敷

智謀如神 受命啓行揚戎兵於克詰

威勇蓋世 妖寇如鼎魚應悔乞降之不早

惟彼膠灣全島 渠魁爲社鼠方知犯順之必誅

實是亞洲要衝 風霆動盪詎容邪氣之留

何猖獗之足憂

蓋指揮之有定 日月清明遂絕浮雲之蔽
正彼四域 告厥成功混車書寰宇之內
出於萬全 屈此群醜置俘虜海島之中
是宜氛祲之消 松門慶祝士女如雲而歡呼
蓋慰神人之望 桑域瑞輝旌旗照日而炫赫

伏念 生等 跡慚蠢蟄
心慕鷹揚

喜地歡天縱遠蹈舞之列
蕪辭荒筆畧表慶幸之情

大正三年十二月二十日

宋 鍾 洙 張 泰 寬 孫 應 振
鄭 在 華 李 丙 薰 李 宣 應

宋 惠 榮 白 樂 性 申 明 雨
李 能 器 尹 俊 永 金 禧 碩
金 弘 植 張 命 根 殷 成 雨
李 淵 兢 金 斗 益 雀 珖 鉉
金 思 玟 洪 殷 杓 朴 貞 植
曹 圭 承 裴 昌 圭 劉 潢 烈
崔 九 顯 李 謙 容 鄭 鼎 鉉
趙 弼 顯 李 德 參 李 重 麒
全 永 九 安 濟 珉 成 義 永
裴 柱 煥 鄭 濟 何 許 義 榮
金 溶 翊 宋 奎 變 金 貴 鉉
李 晚 榮 朴 基 鳴 曹 秉 憲

尹 寧 求

金 周 欽

南 春 熙等

帝國東京凱旋祝賀會御中

右に就き神尾陸軍中將より大正四年一月二十五日附左の挨拶
狀を本會發企人總代宛送付せられたり

拜啓益御安泰恭賀奉り候陳は客年十二月上京に方り東京市
及有志各位に於ける歡迎會に際し朝鮮十三道儒生代表宗鍾
洙氏等より貴會宛送られたる遙拜奉祝箋の寫御惠贈下され
難有謹で御禮申上候御序の節何卒宜敷御傳へ下され度右御
禮旁如斯に御座候 敬具

大正四年一月二十五日

神 尾 光 臣

男爵阪 谷 芳 郎殿

中 野 武 營殿

男爵澁 澤 榮 一殿

七東京驛開業祝賀會及神尾加藤栃内陸海

軍中將歡迎會舉行援助者及挨拶

阪谷市長は東京驛開業祝賀會及神尾加藤栃内陸海軍中將歡迎
會舉行に就き萬一の過誤なからしめむことを思ひ十二月十四
日鐵道院總裁市會議員東京商業會議所會頭三菱地所部等に諸
事援助方を依頼し又警視總監日比谷警察署長東京憲兵隊長に
對し當日に於ける會場内外の警衛及取締方を依頼し置きたる
に幸に無事終了を告げたるに依り同月十九日左の挨拶狀を送
り又口頭を以て謝意を表せり

イ市會議員諸氏に挨拶狀

拜啓昨十八日東京停車場開業祝賀會竝に帝國ホテルに於ける凱旋將軍歡迎會に就ては種々御配慮を蒙り以御蔭無事終了を告候段感謝の至りに候茲に不取敢御挨拶申述度如此に御座候 敬具

大正三年十二月十九日

東京市長法學博士 男爵 阪谷芳郎

各市會議員宛

□警視廳其の他に挨拶

拜啓昨十八日東京停車場開業祝賀會竝に帝國ホテルに於ける凱旋將軍歡迎會に就ては警衛取締に付種々御高配を蒙り以御蔭無事終了候段感謝の至りに候尙御部下關係諸君へ謝

意宜敷御傳示被成下度右御挨拶迄如此に御座候 敬具

大正三年十二月十九日

東京市長法學博士 男爵 阪谷芳郎

警視總監 伊澤多喜男殿

日比谷警察署長 多賀谷岩次郎殿

東京憲兵隊長 高山逸明殿

三菱地所部長 桐島像一殿

商業會議所會頭 中野武營殿

備考 三菱及商業會議所には前文の内「警衛取締に付の六字」を除く

尙ほ右二會の舉行に關しては鐵道院當局及陸海軍省當局諸賢特に熱心に援助を與へられ又新聞通信記者諸君の尠からざる同情あり幸に充分の成功を收むることを得たるは發企人一同

の最も光榮とする所にして且つ深く其の勞を多とする所なり
茲に謹で感謝の意を表す

八山屋堀内山田陸海軍將官以下凱旋陸海軍

將校歡迎會

(一) 舉行の決定及其の方法

神尾加藤柄内陸海軍中將歡迎會舉行の狀況は前述の如くなる
が東京市及有志は其の後第一艦隊枝隊として遠く南洋に出征
し赫々たる勳功を收めて歸朝せられたる山屋海軍中將以下の
幹部及青島攻撃に際し灼々たる驍名を轟かして入京せられた
る堀内山田兩陸軍少將以下の各部隊長を請招し大正四年一月
二十八日更に歡迎會を開催せむとの議を決し其の方法及舉行

次第を左の如く決せり而して之に要する費用は前二會の剩餘
金及市より新に支出する金額とを合せ之に充つることとせり

イ 歡迎方法

- 一場 所 帝國ホテル
- 一 青島攻圍軍各部隊長及南遣艦隊枝隊幹部其他を招請する
こと
- 一 陪賓として陸海軍將校を招待すること
- 一 主人側は東京市會議員同待遇者、市參與、助役、收入役、理事及
實業家有志
- 一 人員約參百名
- 一 當日來賓を休憩所に案内し煙草を呈す
- 一 來賓集合を待ちて食堂を開き茶菓を呈す

- 一 開宴中市長挨拶來賓答辭
 - 一 凱旋部隊長の戦争講話を請ふこと
- 以上

□ 舉行次第

- 一 午後四時開會
- 一 餘興(薩摩琵琶)
- 一 午後五時食堂開始
- 一 發企人總代歡迎辭
- 一 來賓挨拶
- 一 君が代(奏樂)
- 一 大元帥陛下萬歲三唱
- 一 帝國陸海軍萬歲三唱

- 一 山屋海軍中將堀内陸軍少將講話
 - 一 閉會
- 以上

(二) 會場裝飾

本會會場の裝飾は正門前に綠門を設けざる外神尾加藤栃内陸海軍中將歡迎會舉行當時と大差なきを以て茲に贅せず

(三) 主賓陪賓及案内狀

イ 主賓

陸軍

陸軍少將 堀内文次郎閣下
 同 山田良水閣下

陸軍歩兵大佐

同

鶴見虎太殿
 松前正義殿

陸軍一等主計正
陸軍歩兵大佐
同
陸軍砲兵大佐
陸軍歩兵大佐
同
同
陸軍砲兵中佐
同
同
陸軍二等軍醫正
陸軍砲兵中佐
陸軍工兵中佐
同
同
陸軍輜重兵中佐

高山 嵩殿
高野 毅殿
高柳保太郎殿
高橋綏次郎殿
長堀 均殿
加藤豊三郎殿
大内義一郎殿
土居源一殿
山縣保二郎殿
山縣松之輔殿
飯島 茂殿
馬場崎 豊殿
有川 鷹一殿
杉山 茂廣殿
古賀啓太郎殿
野中 光祥殿

陸軍砲兵中佐
陸軍騎兵中佐
陸軍歩兵中佐
同
陸軍工兵少佐
陸軍三等軍醫正
陸軍三等藥劑正
陸軍三等獸醫正
陸軍三等軍醫正
陸軍輜重兵少佐
陸軍砲兵少佐
陸軍工兵大尉
陸軍砲兵大尉
陸軍工兵大尉
陸軍砲兵大尉
陸軍輜重兵中尉

緒方勝一殿
千頭徳次殿
木藤彌太郎殿
堀内龍明殿
中村誠太郎殿
石田雄二殿
渡邊又治郎殿
青山鑛太郎殿
西直 忠殿
園部他未殿
野村由吉殿
重松市三郎殿
原 寅生殿
竹島藤次郎殿
古森住四郎殿
水澤 助三殿

海軍

海軍中將
海軍中佐
海軍大尉
同
海軍機關大佐
海軍大佐
同
同
同
同

山屋他人閣下
松村菊男殿
津留信人殿
鈴木秀次殿
大沼瀧太郎殿
平賀徳太郎殿
志津田定一郎殿
竹内次郎殿
長鋪次郎殿
坂本則俊殿

海軍大佐
海軍中佐
海軍大佐
同
海軍中佐
同
海軍機關中佐
海軍機關大佐
海軍少佐

桑島省三殿
小泉親治殿
角田貫三殿
加藤寛治殿
山梨勝之進殿
兼坂 隆殿
池田岩三郎殿
野口興國殿
森田 登殿

口陪賓

- 一 陸軍大臣及同次官
- 一 海軍大臣及同次官
- 一 參謀總長及同次官
- 一 海軍軍令部長及同次長

- 一 東京府知事及同内務部長
- 一 警視總監及同官房主事
- 一 府會議員
- 一 市會議員及同待遇者
- 一 區會議長
- 一 東京市長、市參與、助役、收入役、理事、各區長
- 一 市内主なる實業家
- 一 新聞社長及市政記者
- 一 其他關係者

ハ案 内 狀

主賓案内狀

拜啓愈、御清穆賀上候陳者今般御入京に付御慰勞の微意を表

し度候間來る二十八日午後四時帝國ホテルへ御賁臨の榮を得度此段御案内申上候 敬具

大正四年一月二十三日

發企人總代

男爵 阪谷 芳 郎
 中野 武 營
 男爵 澁澤 榮 一

宛

陪賓案内狀

拜啓今般上京の凱旋陸海軍將校を招待し來る二十八日午後四時帝國ホテルに於て歡迎會相開き候間御光來被下度幸に御臨席を得ば光榮の至りに御座候此段御案内申上候 敬具

大正四年一月二十三日

發企人總代

男爵 阪谷芳郎

中野武營

男爵 澁澤榮一

宛

追而當日此案内狀御持參被下度希望仕候

御服装は通常服(フロックコート)又は通常禮装に願上候

(四) 徽章

當日は別に陪賓徽章を新製せず正賓には神尾加藤栃内陸海軍中將歡迎會舉行當時と同様の徽章を交付し又主人側は發企人

總代のみ赤色薔薇章を佩用することとせり

(五) 開會

維れ時大正四年一月二十八日山屋堀内山田三將官以下凱旋陸海軍將校歡迎會を帝國ホテルに開く定刻に前後して正賓陪賓會場に来著し設備の休憩所に集合するや當日の餘興たる永田錦心の薩摩琵琶乃木大將「城山」二曲の彈奏あり午後五時食堂を開き歡迎の宴を張る酒數行發企人總代阪谷男爵は徐ろに立ちて一場の挨拶を爲し且つ料理に國産品のみを用ゐたること等を陳べたる後左の歡迎文を朗讀す

歡迎文

海軍中將山屋他人閣下

陸軍少將堀内文次郎閣下

陸軍少將山田良水閣下並出征陸海軍將校各位

閣下及各位は日獨開戦以來幾多の困難を排して勇悍なる敵軍に當り健戦奮闘或は青島要塞を攻略し或は南洋方面の地點を占領し水陸を警備し以て大に我が陸海軍の威力を發揚し國光を中外に顯彰せられたり是れ偏に閣下及各位が國家の爲に身を忘れ義勇奉公の忠節を全ふせられたるに依らずむば焉ぞ能く斯の如きを得む哉惟ふに今次の戦亂たる世界有史以來の事變にして我が陸海軍の戦勝は實に此の世界的事變に際し一層我が帝國の武力を四表に宣揚したるものご謂ふ可く閣下及各位の勞功又隨て偉且つ大なりご謂ふべし今や閣下及各位の入京に際し其の灼々たる勳功を憬仰し感

激敬慕の情自ら禁ずる能はず某等乃ち茲に歡迎會を設け滿腔の赤誠を披瀝し以て聊か犒勞感謝の意を表す閣下及各位冀くは某等の微衷を諒とし幸に之を享受せられむことを

大正四年一月二十八日

發企人總代

男爵 阪谷芳郎

中 野武營

男爵 澁澤榮一

續いて山屋海軍中將堀内陸軍少將答辭を陳ぶ右了るや海軍軍樂隊は全員起立の裡に君が代の國歌を吹奏し次で阪谷男爵の發聲にて 大元帥陛下の萬歲中野武營氏の發聲にて帝國陸海軍の萬歲更に阪谷男爵の發聲にて凱旋陸海軍將校各位の萬歲

を三唱し夫れより山屋中將堀内少將の講話あり而して山屋中將は先づ今次の戦役に於て我が國が軍事的に占領したる南洋諸島の風土氣候より人類習慣物産等に就き精細なる實見談及批評を試み一同に斬新なる知識を提供し又堀内少將は始めに青島陷落の速かなりし主因と題して日本人精神の威力及日本武器の効力竝青島の地形土質天候等を説き次に(一)獨逸國の金の使ひ方及獨逸人の各階級の統一勢力(二)有形の青島は亡ぶるも無形の青島は亡びずして各所に出没活躍す(三)大和民族の前途如何等の題目を掲げて縷々數萬言説き去り説き來りて卓厲風發の名論を演述し一般會衆に對して多大の感興を與へたり斯くて午後八時阪谷男爵の挨拶ありて宴を撤し和氣靄々の裡隨時散會し終れり

(六) 山屋海軍中將及堀内陸軍少將に挨拶

本會舉行後發企人總代阪谷男爵中野會頭澁澤男爵は左の挨拶狀を山屋堀内兩將官に送り以て當夜に於ける臨席及講話の謝意を表せり

拜啓愈御勇健爲國家賀上候陳者昨日は御繁用の際且つ雨天にも不拘御臨席の榮を辱ふし感謝致候尙有益なる御講話被成下陪席者一同深く肝銘致候處に御座候竝に不取敢御厚禮申上度如此御座候早々 敬具

大正四年一月二十九日

發企人總代

男爵 阪谷 芳 郎

中野武營
男爵 澁澤榮一

海軍中將山屋他人殿
陸軍少將堀內文次郎殿 (各通)

(九) 收支精算書

收入

一金壹萬壹千六百貳拾九圓五拾四錢也

總收入

內譯

金五千五百七拾九圓五拾四錢 東京市出金

金五千五百五拾圓
金五百圓

有志者出金
日本橋區六ノ部有志者寄附金

支出

一金壹萬壹千六百貳拾九圓五拾四錢也

總支出

內譯

金參千六百貳拾六圓
金貳千九百貳拾八圓四拾六錢
金貳千六百五拾七圓
金九百九拾圓四拾六錢
金壹千八圓八拾六錢

神尾加藤枋內陸海軍中將歡
迎會場內外裝飾費及饗宴費
東京驛開業祝賀會場內外設備費
同 上 饗宴費
同 上 餘興費
山屋堀內山田陸海軍將官以下凱旋陸
海軍將校歡迎會場裝飾費及饗宴費

金百拾九圓九拾七錢
 金四拾七圓八拾四錢
 金百貳拾五圓九拾五錢
 金貳拾五圓
 金百圓

案 內 狀 印 刷 費
 徽 章 費
 通 信 費 及 雜 費
 寫 真 費
 報告書印刷費及發送費

右收支精算に關しては大正四年二月二日發企人總代に於て之
 を是認せられたり

東京驛開業祝賀會
 及凱旋將軍歡迎會
 報告書終

大正四年四月 九日印刷
 大正四年四月十二日發行

發行兼編輯者 東京驛開業祝賀會及凱旋將軍歡迎會

赤坂區青山南町四丁目二十一番地

右代表者 安 藤 彪 雄

東京市日本橋區兜町二番地

印刷者 神 谷 岩 次 郎

東京市日本橋區兜町二番地

印刷所 東京印刷株式會社

326
74

終

